

# 総務常任委員会行政視察報告書

視察日時：平成26年7月15日（火）～17日（木）

視察地：香川県さぬき市 「さぬき市行政評価について」  
香川県小豆島町 「オリーブを活用したまちづくり  
～地域再生マネージャー事業の活用～について」  
岡山県 倉敷市 「倉敷フィルムコミッション事業について」

## 【香川県さぬき市】

### （視察地選定理由）

行政財源が厳しいなか、いかに市民の方に理解された予算やサービスが行えているかを確認できる「行政評価」を視察項目に掲げ、視察候補地の選定を行ったところ、香川県さぬき市で行われている「行政評価」が外部評価委員により評価を行っているとの事例があり視察地とした。

### （市の概要）

さぬき市は、平成14年4月1日に津田町・大川町・志度町・寒川町・長尾町が合併し、香川県で6番目の市として誕生した。香川県の東部に位置し、隣接する高松市中心までは、約15Km。また、大阪市・広島市には、150Km圏内にある。

面積は158.90㎏で、人口は約52,000人。市の北部は、瀬戸内海に面し、小さな岬・半島の岩や礫の海岸と砂浜が交互に織りなした海岸線で、南部は自然豊かな讃岐山地の山間部です。

産業別の従事者は、第一次産業は、1,792人で7.4%。第二次産業は、6,400人で26.5%。第三次産業は、15,544人64.5%で、第三次産業に従事している方が多く、中でも自然を生かした観光産業に従事している方が多い。

### （事業概要）

さぬき市の「行政評価」は、今日に至っても旧町の取り組み方を継続したまま行政の事業が進んでいる事例があり、過去からの習慣を見直す改革が必要と判断したことや、現在のさぬき市は、総じて仕事を自らの部署のみで完結させようとする傾向が見受けられたことから、もっと広い視野に立って関連した部署と連携し、事業を実施することが重要と考えたこと。また、

行政が市民の立場に立ち、時代の変化に柔軟に対応できる職員教育のためにも行政評価制度が重要と



考え取り組みを行った。

## 1. 外部評価委員による評価を導入するに至った経緯

かつて平成 16 年度には、外部委託して行政評価制度の導入を図り、外部評価を実施したが定着しなかった。現在実施している事業のスクラップ&ビルドや見直しが進んでいない状況を鑑み、外部評価を実施すべきと考え先進地視察を行うとともに予算措置、事前研修を行い平成 24 年度に導入した。

## 2. 行政評価委員の構成

外部からの評価委員を採用。評価委員の構成は、地元大学教員 2 名・市職員 OB 数名・県職員 OB 数名・市民公募により 3 名を選定して合計 7 名。

## 3. 評価事業の選定方法

当初予算に用いる事業内容を示した資料を委員に渡し、その情報を基に各委員に評価したい事業をピックアップして貰い、要望の多かった事業を基に各部のバランス等も勘案して事業を選定。

## 4. 外部評価導入後の成果及び課題

2 年目となる平成 25 年度には、調書の記載や質疑が噛み合ってきたとの評価が各委員から寄せられるなど、好評価を得られた。ただ、評価結果が事務事業の改善や見直しに生かされることが最も重要であり、内部の予算査定等で活用されるように熟成され、認知されることを期待している。また、職員のみならず、執行部や議員などにも、市民目線、専門家目線の意見に耳を傾けて貰えるように位置づけていくことが必要である。

## 5. 改善点

全体事業の約 1 割となる 43 事業しか外部評価を行っていないため、平成 24 年度からは、総合計画の進捗管理と行政評価調書を一体化した評価調書に変更し、効果を高めた。

### (感想)

行政評価とは、行政のさまざまな活動がどのような成果を上げたのか、限られた財源を効果的に活用できているかなどを評価し、結果を反映させることにより、より効率的で効果的な行政運営を求めていく手法で、その評価は市民目線で行われる事が望ましい。

よりコンパクトな行政運営が求められる状況の中、実際に市政を担う職員には、更に事務事業の成果を意識することが求められる。

これからの事務事業は、当市の何を変えるのか、何を守るのかを市民に具体的に説明できなければなりません。そのためにも外部評価のシステムがより成熟し、定着していくことが必要であると思われる。また、藤岡市においては、担当課ごとの一次評価を行い、審



議が終了後、行革推進本部で二次評価を行っているようですが内部の評価のみでは、昔からの「成り行き」や「しがらみ」等で思いきった事業の見直しができずに通年事業になっていることもあるのではないかとと思われる。外部の評価委員により評価し、その結果が反映されることで、市民が望む政策や事業の実現に近づくであろうと思う。

## 【香川県小豆島町】

### （視察地選定理由）

自然豊かな藤岡市において、地域の気候や地形を生かした地域再生事業に取り組むことにより、藤岡市の更なる地場産業の活性化に繋がる施策を考える為、先進事例で成功を遂げている香川県小豆島町による地域再生マネージャー事業による「オリーブを活用したまちづくり」を視察地として選定した。

### （市の概要）

小豆島町は、香川県の北東部で県内の最北端に位置している。隣接する高松市中心までは、フェリーで1時間。また、岡山市は、約1時間10分。姫路市は、約1時間40分。海上の交通が発達しており、生活には重要な交通機関です。面積は、95.63㎢で市の人口は、約15,800人です。多くの島々から成り立つ瀬戸内海国立公園に浮かぶ小豆島の中に位置しており、海と山の美しい自然に恵まれた町です。

産業別の従事者は、第一次産業は、408人、5.7%。第二次産業は、2,495人、34.7%。第三次産業は、4,288人59.6%と他地域に比べ第一次産業の比率が低く、第二次産業が高いという特徴があります。これは、200年の歴史を持つ醤油や佃煮、また、素麺の製造などの食品製造業が盛んであった事や、平坦地が狭小で耕作地が少ないことが第一次産業の就業人口が低い原因と考えられる。

### （事業概要）

明治から栽培されたオリーブを生かした取り組みを、平成2年にオリーブ栽培発祥の地である県立のオリーブ圃場に隣接して小豆島オリーブ公園を整備し、第三セクター（財）内海町オリーブ公園振興公社を立ち上げ、管理、運営を行い、「オリーブの島、小豆島」と全国に広めた。

その結果、小豆島町では、構造改革特区の認定を受け、会社組織によるオリーブの栽培から加工、販売ができる基盤ができたため、栽培の拡大と加工施設の充実が図れ、収穫から搾油までの時間が短縮された。また、低農薬で栽培し、実の一粒を丹念に栽培することで外国産



との品質の差をつけて、ブランドの製品を確立し、また、平成 16 年には、「オリーブワールド推進計画」が地域再生計画に認定され、県から今後のオリーブ園は、観光の目玉として、既存の観光資源と新たな仕掛けを組み合わせるなど、全国や海外からも誘客できるようなイベントに取り組みたいと支援をもらった。

現在は、オリーブソムリエなどの各種イベントを積極的に行い、また、オリーブ製品やグッズを開発しさらなる知名度アップに取り組んでいる。

主な小豆島町地域再生マネージャー事業は、下記の通りです。

小豆島町地域再生マネージャー事業 総括

資料 2

○事業の概要		○事業費 (単位:円)			参考 (単位:円)	
補助率	3分の2	年度	全体事業費	財団助成額	町負担額	財団への助成要望額
・ 補助率	3分の2	18	14,070,000	9,380,000	4,690,000	9,380,000
・ 助成限度額	1団体につき 10,000千円	19	14,910,000	9,940,000	4,970,000	9,940,000
・ 採択枠	全国で約10件 (成長3年間継続事業可能)	20	13,155,450	8,770,000	4,385,450	9,932,000
・ 採択の状況	平成18年度からの継続事業として採択が得られた。	計	42,135,450	28,090,000	14,045,450	

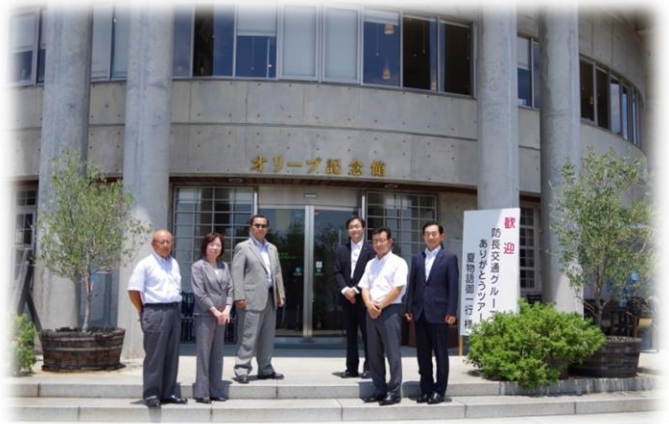
○平成18年度の事業内容		○平成19年度の事業内容		○平成20年度の事業内容	
事業費	14,070,000円	事業費	14,910,000円	事業費	13,155,450円
<b>現状把握・評価分析</b> 事業費 1,197,000円 ◎インターネットアンケート調査 (報告書) (対象者: 関西圏300人・関東圏100人) オリーブに関するイメージ、オリーブの使用経験、小豆島の認知(観光地等) ◎観光客街頭アンケート (報告書) (対象者: 小豆島への観光客100人) 観光スポットに関するアンケート 20問 ◎グローバルインタビュー (対象者: 関西圏在住の20~30代の単身女性6人) (対象者: 関西圏在住の30~40代の既婚女性7人)	<b>持続提供可能な体験メニューの開発</b> 事業費 3,466,150円 ◎オリーブの庄一郎を継承するツアーの企画と試験実施 ※全体マネジメント費 「オリーブの庄一郎歩きツアー」 ◎オリーブ検定と検定用テキストの企画 2008年に向けた「オリーブ検定」の公式テキストの企画 ポスター等作成 ◎ブランド化に向けた商品開発 ※全体マネジメント費	<b>持続提供可能な体験メニューの開発</b> 事業費 594,500円 ◎オリーブ検定(キッズ・ビギナー・マスター)の実施 ・ビギナー、マスター認定カード等のデザイン、作成 ◎マスター認定カード 83枚 (100枚中) ◎ビギナー認定カード 500枚 (追加発注)			
<b>オリーブの活用方法の検討と新たな商品化</b> 事業費 2,457,000円 ◎「オリーブ」素材各種活用方法策定 ◎継続提供可能な体験メニューの開発と具体的提案	<b>オリーブ植栽100周年記念事業</b> 事業費 1,785,000円 ◎ポスターのデザイン検討 ※全体マネジメント費 ◎イベントキャラクターの展開計画 ※全体マネジメント費 ◎映像「オリーブ100年物語」の企画構成及び資料収集 3ヵ年事業 <b>イベント及びバー</b> 50円 ◎特別展「オリーブを愛した西郷隆盛」 ※主催マニフェスト費	<b>ブランド化に向けた内部スキルアップ</b> ◎園地品評会、オイル品評会の企画 ※全体マネジメント費 ◎方タドル(オリーブオイル鑑定士)による 地元企業の研修企画 ※全体マネジメント費 ◎瀬戸内オリーブ研究会の再構築 ※全体マネジメント費			
<b>年間を通じた活動計画の策定</b> 事業費 2,971,500円 ◎「オリーブ植栽100周年記念事業」のプログラム策定 ◎2008年までの年次計画・パッチェルイベントの検討	<b>プレイベント及びバー</b> ◎WEB上での写真コンテストや レシピ・キャラクターネーミングの公募企画 オリーブクッキング・レシビコンテスト、オリーブレシビコンテスト、 携帯フォトコンテスト ◎オリーブの絵本の企画 HFP上での掲載	<b>広報・集客計画</b> 事業費 7,153,935円 ◎「百年祭」HPの更新(年間スケジュール等の変更) ◎絵本「オリーブ100年物語」のHP掲載、発行(55冊) ◎映像「オリーブ100年のあゆみ」の作成・DVD盤印刷(50枚) 制作費 映像「オリーブ100年の歩み」約15分「健康オリーブ果汁(4種)」約4分の作成 DVD製作費			
<b>オリーブファクトリー基本構想策定</b> 事業費 1,385,000円 ◎オリーブ記念館のリニューアルを含めたファクトリーの検討 小豆島オリーブのイメージアップ、オリーブ公園の体験価値の向上 構想、企画書	<b>広報・集客計画</b> 事業費 4,116,730円 ◎パター、フラッグのデザイン計画 ◎ポスター、パナフレック、パンフレットのデザイン ◎HPの企画・作成 ◎既存施設の情報発信性の見直しと改善計画 記念館展示改設計	<b>町民のファンクラブ「CLUB OLIVE」の企画</b> (約110名加入) オフィシャルサポーター(一般会員) 町出身者で設立趣旨に賛同者 オフィシャルアドバイザー(特別会員) オフィシャルサポーターのうち町長が委嘱者 オフィシャルスポンサー(賛助会員) 設立趣旨に賛同し、協力していただける企業・団体など 集ファンクラブ会員カード500枚作成(デザイン費込み) ◎クラブオリーブアドバイザーカードのデザイン・制作 (約20名構成) ◎会員カード 50枚作成(デザイン費込み)			
<b>総括</b> 事業費 3,827,350円 ◎ 成果本 製本費 全体マネジメント科 事務費(旅費30回)ほか	<b>総括</b> 事業費 4,445,070円 ◎ 成果本 製本費 全体マネジメント科 事務費(旅費40回)ほか	<b>総括</b> 事業費 5,303,035円 ◎ 事業報告書 製本費 全体マネジメント科 事務費(旅費4回)ほか 商標登録(オリーブキャラクター3点 '00年祭ロゴ1点) ナビ観覧板(オリーブ公園)デザイン			

事業期間は、3ヶ年に亘り実施され、総事業費は、4,213万円(そのうち町の負担額は1,404万円)であった。

(感想)

「オリーブを活用したまちづくり」については、先人が残したオリーブ栽培が当地に定着し、また、町民の方々により長く守られてきたことが大きな財産になったと思われる。今後の更なる事業の取り組みにより小豆島観光の振興に繋げて行くものと思います。また、将来計画は、住民により地域の持つ素材を生かした魅力ある生活空間を作り上げることや、団塊世代にとって、新しい人生のステージを、オリーブ作りで暮らすというライフスタイルを選択してもらいなどの事業を推進し

ていくことが重要であると思います。経済的な効果は、オリーブを核とした地域振興に芸術・文化を結合させることにより、地域のイメージをよくするとともに、滞在型、体験型の新たな観光ニーズを充足させ、更なる観光客の増加に繋げる計画になっている。このような地域再生計画は、藤岡市においても多くのブランド品があり、「高山社跡」の世界遺産登録によって、来客者が増えているため、早期に検討して新たな製品や産業を作り上げることが必要と思う。



## 【岡山県倉敷市】

### （視察地選定理由）

藤岡市においては「高山社跡」が世界遺産登録となった事により、史跡等を活用した地域活性化計画が図れるような施策がないか調べたところ、岡山県倉敷市で「伝統的建造物群保存地区」に指定されている倉敷美観地区を始め魅力ある観光資源を地域の活性化に繋げている「倉敷フィルムコミッション事業」があり、視察地とした。

### （市の概要）

倉敷市は、岡山県の南中央部に位置し、岡山市に隣接している中核市であります。倉敷市の面積は、354.73 km<sup>2</sup>で市の人口は、約 483,000 人。瀬戸内海に面し、恵まれた資源と優れた伝統文化を有する個性と魅力にあふれた観光分野にも大きい潜在力を持つ市で、市内には、倉敷川沿いに建ち並ぶ白壁の町並みや、日本で最初の私立西洋近代美術館の大原美術館があり、古くからの伝統的建物が多いう倉敷美観地区は、昭和 50 年に文化財保護法に基づいて「伝統的建造物群保存地区」に指定された。

指定以来、市と地域住民の方々との努力により、美観を保護し、現在に至っている。

平成 24 年に、倉敷市へ訪れた観光客数は約 624 万人で、観光産業が大変盛んな市です。



## (事業概要)

フィルムコミッションとは、映画・テレビ・CM などあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致・支援し映像を通して広く PR することにより知名度アップを図り地域の観光・経済振興、文化振興を図ることです。このフィルムコミッションは、平成 12 年に大阪ロケーション・サービス協議会が全国で初めて設立され、倉敷フィルムコミッションは、平成 15 年から開始された。

倉敷美観地区をメインに、瀬戸内海の多彩な観光資源を活用し、映画の撮影やテレビのロケーション誘致を積極的に行っており、広く全国や海外に紹介することにより知名度アップを図り、観光客の増加、また撮影スタッフ等の滞在により、さまざまな経済効果を促進している。年々、ロケの件数は増加傾向にあり、平成 25 年度のロケ受入れ実績は、28 件で下記の通りである。

## 倉敷フィルムコミッションのロケ受入実績 【平成 25 年度】

28件発表

『ふらり旅 いい酒 いい肴』	テレビ朝日映像BS(情報)	『ネプチューンの1000人の困ったちゃん』	TBSテレビ(情報)
『夢みる金バク!』	OHK岡山放送(情報)	『明日を紡ぐ5つの旅 高校生の夢スペシャル』	NHK総合(情報)
『新日本風土記～倉敷～』	NHKBSプレミアム(情報)	『おかたかつ!～岡山vs香川～』	NHK岡山M放送局(情報)
『一趙日本、多様感動』	台湾TV(情報)	『倉敷空中散歩』	SHEEP(CM)
『モーニングワイド』	韓国KBS(情報)	『元祖!大食い王決定戦』	テレビ東京(情報)
『瀬戸内リレー～浴衣を楽しむ～』	KSB瀬戸内海放送(情報)	『旬ハイウェイ』	読売テレビ(情報)
『夏の幸せ金ピカ旅行』	中国放送(情報)	『DISCOVER WEST2014キャンペーンCM』	JR西日本(CM)
『美しい日本に出会う旅』	BS-TBS(情報)	『サントリー地域文化賞VTR』	ドキュメンタリージャパン(CM)
『対決!MISSION Xperia』	電通クリエイティブ(CM)		
『朝だ、生です、旅サラダ』	朝日放送(情報)		
『エブリのまち～もんぜんまっぷ～』	OHK岡山放送(情報)		
『JリーグCM(ファジアーノ岡山)』	太陽企画(CM)		
『国分太一のおさんぽジャパン』	フジテレビ(情報)		
『ぶらぶら美術・博物館』	BS-日テレ(情報)		
『釣り人万歳』	NHKBSプレミアム(情報)		
『DEEP "I promise You"』	プロモーションビデオ(CM)		
『ぐるっと食の旅キッチンがゆく』	NHKBSプレミアム(情報)		
『ぐるっと瀬戸内の旅』	NHKBSプレミアム(情報)		
『FINDING JAPAN & ME』	楽天トラベル(CM)		
『よ～いドン!』	関西テレビ(情報)		

6

事業の目的： 倉敷市の知名度アップ  
ロケ隊または、観光客による経済効果

### 倉敷フィルムコミッション事業の内容

#### 1: PR 活動

- 1) 倉敷 FC 紹介パンフレットの作成・配布
- 2) 制作会社等へのプロモーション活動

#### 2: 撮影支援

- 1) シナリオハンティングやロケーションハンティングへの同行

- 2) ロケ本番撮影への同行
- 3) 撮影使用施設の関係機関への使用打診や許可申請手続等の協力
- 4) 撮影スタッフ等の宿泊施設の紹介や予約の手続など
- 5) その他必要と認める支援活動

### 3：調査活動

- 1) 撮影可能施設リストの作成
- 2) 関連企業（ホテル・旅館・機材レンタル・スタジオ・警備・飲食店等）リスト作成

### 4：連携事業

- 1) 全国フィルムコミッション連絡協議会主催の各種事業への参加
- 2) 岡山県フィルムコミッション連絡協議会
- 3) 他団体が開催する情報交換会への参加や出展

### 5：撮影協力機運の醸成

- 1) 倉敷フィルムコミッションの設立を契機として、企業・団体・市民一人ひとりが撮影に対する理解や協力機運を高めるよう努める。

### 6：執行体制

- 1) 職員3名（主幹1名・主任1名・主事1名）が兼任。

### 7：事業予算

- 1) 平成26年度 約340万円（嘱託職員1名人件費含む）

この様に多くの成果を残している。また、ロケ終了後、ロケ記念碑を倉敷市内に設け、ロケ地をめぐるツアーを企画したり、ロケ地を紹介するガイドさんがロケの説明やロケのエピソードを紹介したりして、観光産業への活性化に繋げている。

### （感想）

「倉敷フィルムコミッション事業」については、昭和50年に文化財保護法に基づいて「伝統的建造物群保存地区」に指定された倉敷美観地区が大きく影響している。倉敷市においては、長期にかけて町並みの整備を進め、日本を代表する建造物を保持する地域となっている。

現在も、継続して地域の整備を進めており、更なる飛躍が期待される。このような地域活性化事業は、藤岡市においても「高山社跡」の世界遺産登録によって、来客者が増えているため、観光資源に磨きをかけて積極的にPRを行うことにより「高山社跡」を見学に訪れた来客者を観光に繋げ観光産業や地域の消費アップなど、活性化が図れるような施策を早期に実現することが必要と考える。



上記のとおり報告いたします。

総務常任委員会

委員長 野口 靖

副委員長 渡辺新一郎

委員 窪田 行隆

山田 朱美

茂木 光雄

隅田川徳一